

林 重雄¹：愛知県田原市大草海岸に *Strongylodon lucidus* (G. Forst.) Seem. の種子漂着
 Shigeo HAYASHI¹：Seed *Strongylodon lucidus* (G. Forst.) Seem. stranded on the beach of Tahara City, Aichi
 Prefecture, Japan

マメ科の *Strongylodon* 属は1836年に Vogel によって記載され、旧世界の熱帯から亜熱帯にかけての広範囲から12の種が知られている (Huang 1991). 本属の花の色は多岐にわたり、中でもヒスイカズラはエメラルドグリーンの花が美しいことで知られ、各地の植物園などで栽培されている。 *Strongylodon lucidus* (G. Forst.) は海流散布によって広くフィリピン、ニューギニア、オーストラリア、ポリネシアなどの大太平洋諸島に分布する木本のつる植物である (Gunn & Dennis 1976; Huang 1991; 中西・坂巻 2017). 本種の花はオレンジ系から赤色を示し、鞘は楕円形で表面は網目状となる (Huang 1991). 本種の種子は黒色でやや光沢があり、偏球形でヘソは珠孔から反対側へ半円状に伸び、全周の5分の3から4分の3を占める (Huang 1991; Smith 1999; 中西・坂巻 2017). *Oxyrhinchus trinervius* (Donn. Sm.) に似ているが、 *O. trinervius* のように球形ではなく、ヘソの周囲が唇状に盛り上がることはない (林・加藤 2009; 中西・坂巻 2017). 渥美半島に位置する田原市の太平洋側には砂浜海岸が連続し、豊橋市との境界から伊良湖岬までは、東西約30kmになる (田原市 2008). 太平洋に面する海岸一帯は、初夏から秋にかけ漂着物が打ち上げられるシーズンとなり (林 重雄ブログ) 定期的な漂着物調査を行っている。今回、本州中部の愛知県田原市の海岸で *Strongylodon lucidus* の種子の漂着を確認したので、ここに報告する。

漂着記録

筆者は2019年6月23日、愛知県田原市大草海岸 (図1) で漂着物の調査中に砂に埋もれた *Strongylodon lucidus* の種子の漂着を確認した。

発見時 (午前11時) の天候は晴れ、最寄の伊良湖岬のデータによれば気温23.3℃、西の風、風速2.2m/sと穏やかなで日であった (気象庁ホームページ). 種子は大草海岸の暴浪汀線上に、他の点在する漂着物と一緒に漂着していた (図2). 当地は5月20日から21日にかけて荒天となり、伊良湖岬のデータによれば前線通過により二日間の降水量は137mmにも達した。また東南から南の風が卓越し2日間の平均風速は9.2m/s、最大瞬間風速は18.5m/sにも達した (気象庁ホームページ). 潮位も大潮にあたり、この時の暴浪が暴浪汀線上に漂着物を運んだものと推定できる。5月25日の調査時には飛砂によって暴浪汀線上の漂着物に砂が被っていることが多く発見できなかったが、6月23日の再調査で砂に埋もれて表面の一部が露出していた本種の種子の発見となった。

種子の長径は16.7mm、短径は14.5mm、厚みは13.6mmであった (図3). 種子の表面の色彩は、暗赤褐色から黒色を呈しており、やや光沢があり平滑であった。ヘソの周囲は盛り上がることも無く、全周の3分の2ほどであった。こうした特徴から、 *Strongylodon lucidus* と同定される。また表面にはコケムシ類の付着痕跡も見られた。

種子の漂着に随伴して目立ったものは、700mほどの暴浪汀線上の調査区域内でプラスチック製オレンジ

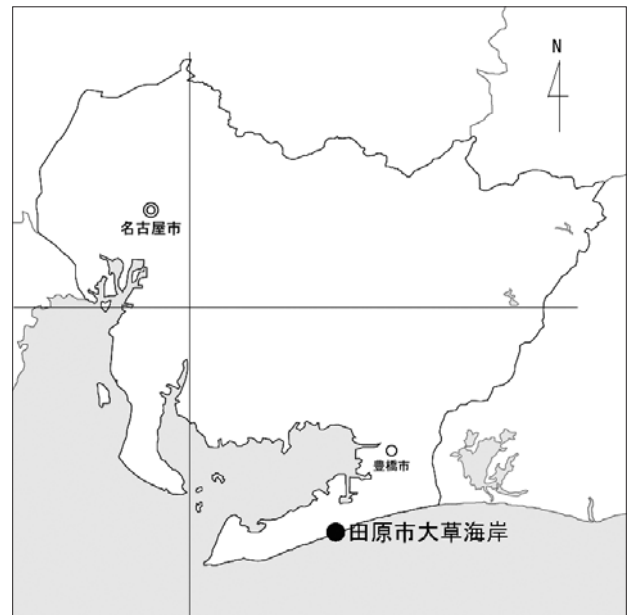


図1 愛知県田原市大草海岸の位置



図2 田原市大草海岸に漂着した *Strongylodon lucidus* の種子の漂着状況

浮き67個、中国製で黒色の直径30cmほどの球形浮き8個、コウイカ類の甲50個、それに中国のペットボトル18本、ベトナムのペットボトル3本であった。再調査は今回の暴浪汀線の特徴であるプラスチック製オレンジ浮きと、コウイカ類の甲が散見できる区域を重点的に行った。

考察

これまでに日本国内における *Strongylodon lucidus* の種子の漂着記録は沖縄から報告されていた（中西・坂巻 2017）が、漂着記録は限られている。こうした日本への漂着例が少ないのは、漂着量が少ないのと同時に、種子の形状が小さく、広く知られていないのも要因の一つであろう。本州への漂着例として、安延尚文氏のブログ（hiroimono）で、2012年10月17日の記事・御前崎の海豆で記録されている *Strongylodon* 属も本種と思われる。

愛知県の渥美半島の太平洋側で漂着物調査を続けてきたが、今後も継続的な調査を続け、黒潮の影響が強い夏季の漂着物に注目することで、海流散布植物の生態や分布に関する新たな知見が得られるであろう。

謝辞：本稿をまとめるにあたり亜熱帯植物研究所の中西弘樹先生には種の同定に助言をいただき、論文の入手でもお世話になった。北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。また2名の査読者には論文の改善にかかるご指摘を頂いた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- Gunn, C. R. and Dennis, J. V. 1976. World guide to tropical drift seeds and fruits. 240pp. Quadrangle, New York.
- 林 重雄・加藤詩邦. 2009. 沖縄県宮古島市池間島への *Oxyrhynchus trinervius* (マメ科) の種子の漂着. 漂着物学会誌 7 : 39-40.
- 林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>) (2019年6月25日閲覧)
- Huang, Shing-Fan. 1991. *Strongylodon* (Leguminosae-Erythrinae), a revision of the genus. Wageningen Agricultural University Papers 90-8: 1-68pp. Wageningen, Netherlands.
- 気象庁ホームページ. (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) (2019年6月25日閲覧)
- 中西弘樹・坂巻(久野)幸子. 2017. 与那国島(沖縄県)への熱帯起源の稀な果実と種子の漂着記録. 漂着物学会誌. 14 : 5-9.
- Smith, Jeremy. 1999. Australian Driftseeds. 123pp. University of New England, New South Wales, Australia.
- 田原市 2008. たはらの海辺の博物誌. 95pp. 田原市, 愛知.
- 安延尚文ブログ. hiroimono (<http://seaglass.ashibee.net/?page=2&cid=12836>) (2019年6月25日閲覧)

(Received Jul. 8, 2019; accepted Sep. 30, 2019)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan

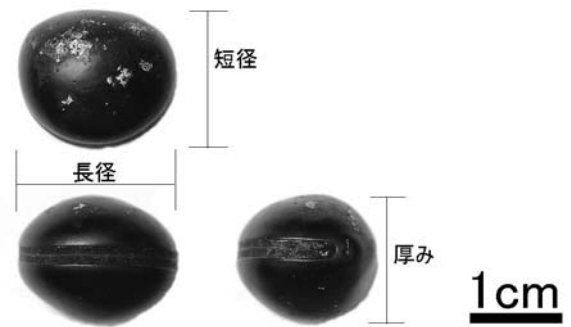


図3 田原市大草海岸に漂着した *Strongylodon lucidus* の種子